

解説

附属高等学校 英語

タイトル：「英語ディスカッションを通して養う批判的思考力と協働力」

授業者：金子麻子

解説タイトル：

異なる立場を踏まえて考えを深める英語ディスカッション

— 批判的思考力・他者理解力・協働力の育成 —

コンピテンシー育成開発研究所

特任助教 押尾 恵吾

本実践は、高校 3 年「英語コミュニケーションⅢ」の授業で、教科書の論説文を読み、英語でディスカッションした後、自分の考えを英文エッセイとしてまとめる活動を通して、批判的思考力、他者理解力、協働力を育むことを目指したものである。教材では、地球温暖化の抑止につながるパームオイルの利用が、その生産に伴う森林減少によってオランウータンの生息地を脅かすという問題が扱われている。このジレンマを題材とすることで、生徒が複数の立場から問題を捉えることが意図されている。

授業は、環境問題に関する英語ニュースのリスニング、論説文のリーディング、内容理解、リテリングを経て、「地球温暖化の抑止とオランウータンの保護のどちらを優先すべきか」についてグループでディスカッションし、最後に英文エッセイを書く構成となっている。教材を理解して自分の立場を考え、他者との対話を経て自分の意見を文章にするという流れがつけられている。

注目すべきは、問題に単純な正解が設定されていないことである。地球温暖化の抑止と絶滅危惧種の保護はいずれも重要であり、生徒には相反する側面を踏まえ、どちらを優先するのかを判断し、その理由を説明することが求められる。情報を理解するだけでなく、複数の観点を比較し、自分なりの判断を形成するところに、**批判的思考力**に関わる学習が位置づけられている。

一方、ディスカッションでは、「自分の意見を述べる」「根拠を示す」「他者の意見に賛成・反対を述べる」といったストラテジーが提示され、相手の意見を理解した上で、自分の立場を理由とともに伝えることが重視されている。反対する場合にも相手を尊重し、理由や例を示すことが求められ、異なる考えを受け止めながら話し合いを進めることが活動に組み込まれている。ここには、相手の考えを理解する**他者理解力**、異なる意見を持ち寄って議論を進める**協働力**が関わっている。

さらにディスカッションがその場で終わらず、エッセイライティングにつながっている。生徒には、そこで得た他者の意見を counter argument として取り入れ、論を深めることが提案されている。実際のエッセイにも、異なる立場を取り上げ、それを検討しながら自分の主張を展開する記述が見られる。つまり、他者の意見が、自分の考えを捉え直し、より多面的に考える材料となっている。

以上のように、本実践では、英語で自分の意見を表現することに加え、異なる立場を理解し、それを踏まえて自分の考えを吟味し、他者とのやり取りの中で考えを深める学習が展開されている。内容理解からディスカッション、エッセイライティングへと学習をつなげることで、**批判的思考力**を中心に、**他者理解力**と**協働力**が相互に関わる形でコンピテンシーを育成しようとしている点に、本実践の特徴がある。